

# 鳥浜貝塚出土(1985年度調査)の哺乳類遺存体

茂原信生 本郷一美  
網谷克彦

- 
- |                |                |
|----------------|----------------|
| はじめに           | 3. 各哺乳類についての概説 |
| 1. 出土点数および出土重量 | まとめ            |
| 2. 出土した哺乳類のリスト |                |
- 

## はじめに

本報告は、福井県三方郡三方町鳥浜にある鳥浜貝塚の1985年度の発掘調査の際に出土した哺乳類の遺存体についての報告である。本報告では主として2区から出土した獣骨を扱う。2区からの出土量は1985年度に発掘された全体の4割弱である。伴出する土器型式は、羽島下層Ⅱ式から北白川下層Ⅱ式であり、いずれも縄文時代前期に位置づけられるものである。

出土骨の保存状態は非常に良いが、水洗後の乾燥時に骨の表面が剝離したものもある。標本を水洗・乾燥した後、それぞれの標本に通し番号を付けて同定作業に移った。表4から表13に示した標本点数の集計では、長骨の近位、遠位、骨幹等の部分にこだわらずに集計している。したがって、同一の骨の別の部分を2回以上数えている可能性もあるので、層位別にまとめた標本の総数が出土したシカやイノシシの個体数に対応しているとは限らない。それらのデータは別の機会にまとめる予定である。

## 1. 出土点数および出土重量 <sup>(1)</sup> (表1)

1985年度の報告分として扱った脊椎動物骨の出土点数は、ごく小さな破片と人為的な加工の施してある骨を除いた8681点である。調査した骨は、シカとイノシシがほとんどで、それ以外の哺乳類は192点、魚骨が144点、鳥骨が115点であった。魚骨や鳥骨の出土量は、哺乳類の骨の出土量に比べれば圧倒的に少ない。

鳥浜貝塚は、海岸からもさして遠くない湖岸もしくは湖沼の岸辺に集落を構え、水辺に廃棄活動が行なわれて形成された遺跡である。漁労具の出土量も多く、集落前面の内水面や海岸は重要な生業の場であり、淡水産小型魚類の採集が中心であったと考えられている。それにもか

表 1

	イノシシ	シカ	他の哺乳類	魚骨	鳥骨	不明・雑
2区での出土数	1879	3267	192	144	115	3004
2区での出土重量	63720g	115110g	2969g	1450g	204g	20632g
出土重量の割合 (不明・雑を除く)	34.7%	62.7%	1.6%	0.8%	0.1%	
1972年度の 出土量の割合(西田)	37.5%	57.4%	2.1%	2.8%	0.3%	

かわらず、魚骨の残存量は非常に少ない。この原因は、魚骨が小さいために発掘で見逃される機会が多いこと、腐食動物がイノシシやシカに比べてやわらかな魚骨をかなり食べてしまっていたことなどのバイアスによると考えている。

なお、本報告で扱う動物は哺乳類に限定した。2区での総出土重量は約204kgであった。今回のそれぞれの出土重量の割合を、1972年の発掘時の出土重量の割合(西田, 1979)と比較すると、イノシシではほぼ変わりなく、ニホンシカはやや多く出土している。1972年度の報告の場合には、シカとカモシカとを区別していないので、今回のシカの出土重量は、少なめに出てもおかしくないはずであるのに、やや多めになっている。シカとイノシシの出土量が全体の95%近い点など大筋では変わっていない。

## 2. 出土した哺乳類のリスト

分類別に見た出土哺乳類は、以下の5目11科15種である。

### 哺乳綱 Mammalia

#### 食肉目 Carnivora

##### クマ科 Ursidae

ツキノワグマ *Selenarctos thibetanus* (61点)

##### イヌ科 Canidae

オオカミ *Canis lupus* (3点)

イヌ *Canis familiaris* (6点)

タヌキ *Nyctereutes procyonoides* (20点)

##### イタチ科 Mustelidae

テン *Martes melampus* (3点)

アナグマ *Meles meles* (22点)

カワウソ *Lutra lutra* (9点)

ネコ科 *Felidae*

ヤマネコ *Felis bengalensis*? (1点)

アシカ科 *Otariidae*

オットセイ? *Callorhinus ursinus*? (1点)

霊長目 *Primates*

オナガザル科 *Cercopithecidae*

ニホンザル *Macaca fuscata* (26点)

ウサギ目 *Lagomorpha*

ウサギ科 *Leporidae*

ノウサギ *Lepus brachyurus* (1点)

クジラ目 *Cetacea*

クジラの種類(科は不明) (1点)

偶蹄目 *Artiodactyla*

イノシシ科 *Suidae*

イノシシ *Sus scrofa* (1879点)

シカ科 *Cervidae*

ニホンシカ *Cervus nippon* (3267点)

ウシ科 *Bovidae*

カモシカ *Capricornis crispus* (38点)

### 3. 各哺乳類についての概説

これらの出土哺乳類について概説していくが、シカとイノシシは出土量が多いので独立して扱うことにする。

#### (1) ニホンシカ(写真1~3)

哺乳類の中では、もっとも出土量が多い。重量比でも(表2-1)、また、出土点数比でも同様である(全体の58.4%)。層別別に集計した部位別の出土点数を表3~7に示した。集計方法は、前に述べたように一般のものとは少し異なっているが、踵骨や距骨などの様にはほぼ完形で出土するものでは最小個体数を推測できるはずであり、歯でも同一歯種の同一側のものの出土数から最小個体数を推測できる。このようにして推測された鳥浜貝塚出土のニホンシカの最小個体数は、右距骨から算定された53頭である。

現生のシカの各部位の重量比と鳥浜貝塚出土のシカの重量比を比較してみると、残存してい

表2-1

	椎骨				頭蓋骨	下顎骨	肩甲骨	上腕骨	橈骨・尺骨	中手骨	手根骨	寛骨	大腿骨	脛骨	足根骨			中足骨	指骨			膝蓋骨	胸骨	合計
	頸椎	胸椎	腰椎	仙椎											踵骨	距骨	他		基節骨	中節骨	末節骨			
現生のニホンジカ のニホンジカ (%)	304	208	173	50	425	140	128	190	156	86	22	134	228	240	36	22	18	116	49	30	22	12	35	2818
鳥浜貝塚の ニホンジカ (%)	8601	1698	4496	0	8695	5990	5889	9992	7401	2859	150	4244	11195	12585	2583	2352	435	5399	1331	472	129	86	21	86603
現生と鳥浜 との比較	82.5	23.8	75.8	0.0	59.7	124.8	134.2	153.4	138.4	97.0	19.9	92.4	143.2	153.0	209.3	311.9	70.5	135.8	90.3	45.9	17.1	20.9	1.8	
三貫地貝塚の ニホンジカ (%)	187	111	256	57	675	557	554	802	1076	664	5	604	483	1524	573	352	22	450	233	43	18	18	5	9269
現生と三貫地 との比較	18.7	16.2	45.0	34.7	48.3	120.0	131.6	128.3	209.7	234.7	6.9	137.0	64.4	193.1	483.9	486.4	37.2	117.9	164.7	43.6	24.9	45.6	4.3	

表2-2

	椎骨				頭蓋骨	下顎骨	肩甲骨	上腕骨	橈骨	尺骨	中手骨	手根骨	寛骨	大腿骨	脛骨	足根骨			中足骨	指骨			膝蓋骨	胸骨	腓骨	合計
	頸椎	胸椎	腰椎	仙椎												踵骨	距骨	他		基節骨	中節骨	末節骨				
現生のイノシシ のイノシシ (%)	106	160	118	23	382	244	114	180	68	66	40	22	122	176	130	24	18	12	42	30	16	12	12	14	12	2143
鳥浜貝塚の イノシシ (%)	2735	1750	2457		11722	13904	3655	5878	1383	2911	753	743	3523	4888	5568	1211	386	89	528	346	100	32	0	0	36	64598
現生と鳥浜 との比較	85.6	36.3	69.1	0.0	101.8	189.0	106.4	108.3	67.5	146.3	62.5	112.0	95.8	92.1	142.1	167.4	71.1	24.6	41.7	38.3	20.7	8.8	0.0	0.0	10.0	
三貫地貝塚の イノシシ (%)	191	232	109	0	861	223	437	631	62	337	128	15	217	303	360	56	126	16	0	103	23	4	41	0	0	4475
現生と三貫地 との比較	86.3	69.4	44.2	0.0	107.9	43.9	183.6	167.9	43.7	244.5	153.2	32.7	85.2	82.4	132.6	111.7	335.2	63.9	0.0	164.4	68.8	16.0	163.6	0.0	0.0	



表 5

層位	頭蓋		左右あり	P2		P3		P4		M1		M2		M3		角	層位別総数
	右	左		右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左		
1																3	3
2	27	23	14	5	2	6	5	6	6	13	8	12	11	12	9	33	192
3	1	4	3		1		1		1		1					32	44
5	12	7	9				1		1	1	3	1	4	1	1	72	113
7																1	1
8	1		1										1	1	1		5
10	11	12	6	1	1	3	1	4	1	3	1	4	4	2	2	45	101
15	6	10	5			1		1		1	2		1			88	116
16	4	2														21	27
18		1	1													6	8
91																1	1
部位別総数 植立歯	62	59	39	6 (4)	4 (4)	10 (8)	8 (8)	11 (8)	9 (7)	18 (15)	15 (10)	17 (11)	21 (10)	17 (10)	13 (10)	302	611

標本数 506 点

表 6

層位	下顎		C		P2		P3		P4		M1		M2		M3		層位別総数
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	
1	2	2							1		2		3		3		13
2	39	29			7	8	9	12	8	12	19	18	17	19	14	14	225
3	18	9			7	2	8	2	9	1	10	3	9	4	4	4	90
5	12	10			2	3	5	6	4	6	7	5	5	5	6	6	82
6	1																1
7		1															1
8	1	1											1		1		4
10	21	9		1	3	3	6	4	8	4	12	5	10	5	6	5	102
15	1	2				2		3		3	1	3		3	1	3	22
78		1										1					2
92	1				1		1		1		1		1				6
部位別総数 植立歯	96	64	0 (0)	1 (0)	20 (20)	18 (18)	29 (29)	27 (27)	31 (31)	26 (26)	52 (49)	35 (35)	46 (45)	36 (35)	35 (31)	32 (31)	548

標本数 171 点

表 7

層位	dp2		dp3		dp4		層位別総数
	右	左	右	左	右	左	
上顎歯	2			1	2		3
	10				1		1
	18				1		1
歯種別総数	0	0	1	0	4	0	5
下顎歯	1				1		1
	2	3		5	1	6	17
	3	1	1	1	1	1	6
	5			1	1		2
	10				2	1	5
	78		1		1	1	3
歯種別総数	4	2	7	5	9	7	34

シカ上・下顎乳歯の総出土点数 39

る率が高い部位は、下顎骨、肩甲骨、上腕骨、橈・尺骨、大腿骨、脛骨、踵骨、距骨および中足骨である。反対に、残存している率の低い部位は、胸椎、仙椎、頭蓋骨、手根骨、中節骨、末節骨などである。

鳥浜貝塚の獣骨の残存状態については、稲波（1983）が各骨の残存率を計算するという綿密な調査をしている。稲波は、鳥浜貝塚のシカでの残存率は、肩甲骨、寛骨、上腕骨、大腿骨でもっとも高く、ついで踵骨、距骨がよく残っていると報告している。これと同様の傾向は、今回の調査でも確認された。

縄文後期の福島県三貫地貝塚のシカにみられた残存率と比較すると、長骨の残存率が良い点には変わらない。しかし、三貫地貝塚では頸椎、腰椎や大腿骨などの残りは悪く、また、鳥浜貝塚とは逆に中手骨、寛骨などの残存率が高い（茂原・他；1989）。鳥浜貝塚の椎骨の残存率のうちで、頸椎・腰椎の残存率が高いのは、シカの肋骨をともなった胸部が、他の椎骨とは別の扱いを受けていたことを推測させる。遺跡による、また時代による部位の残存率の違いが各骨の利用のされ方の違いを示すものか、あるいは発掘時の採集、あるいは同定作業によるバイアスなのかは今のところはっきりしていない。今後の資料の蓄積が待たれる。

シカの角は、さほど破損されずに出土することが多く、縄文遺跡によく見られるように、人為的に細片化しているといったようなことは少ない。

## （2）イノシシ（写真4～6）

シカについて多く出土している。重量、および出土点数はシカの約半分である。イノシシの部位別に見た出土点数を表8～12に示した。この表から推測された鳥浜貝塚のイノシシの最小個体数は、下顎右第一大臼歯から算定された66頭である。最小個体数では、全体の残存量とは逆にイノシシの方が多結果となった。

イノシシで残存する率の高い部位は、下顎骨、尺骨、脛骨、踵骨で、逆に残存する率の低い部位は胸椎、腰椎、仙椎、頭蓋骨、中手骨、中足骨、指骨などである。

稲波（1983）は、鳥浜貝塚のイノシシの骨の残存状態について、下顎骨、寛骨、上腕骨、尺骨、踵骨、肩甲骨などの残存率は高く、一方、頭蓋骨、大腿骨、胸椎、中手骨、中足骨などの残存率が低いことを指摘している。今回の調査でも大筋で違いは認められない。三貫地貝塚の場合は、鳥浜貝塚の場合よりも下顎骨、手根骨の出土率が低く、逆に中手骨、距骨や指骨の残存率が高い。

イノシシの椎骨の場合は、胸椎・腰椎の残存率がともに低い点でシカとは異なっており、両者での解体のされ方、分割のされ方が異なっていたことを推測させる。

## （3）グリッド別の出土点数および重量

今回調査した2区の出土点数および出土重量を各グリッド別に集計してみた（図1,2）。2区の東が1区、北が4区、東北が3区である。3区・4区に近いグリッドほど出土点数・重量が

表 8

層位	肩甲骨		上腕骨		橈骨		尺骨		寛骨		大腿骨		脛骨		腓骨		層位別総数	
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左		
1	1	1		1	3	13	19	12	10	16	25	30	31	20	3	2	1	16
2	12	19	24	21	13	13	19	12	10	16	25	30	31	20	3	2	3	270
3	7	4	8	5	2	6	4	7	1	6	4	4	3	4			65	
5	7	10	10	8	1	2	5	12	5	10	10	6	8	11	1		106	
7					1												3	
8	1	1	1	2		2							1	1			9	
9			1														1	
10	9	4	5	6	3	2	2	4	2	1	1	4	8	5	1		57	
15		4	2	1	1		1	2	4	5	1		2	5			28	
16		1															1	
18		1	1			1		1				1					5	
20											1		1				2	
29						1								1			2	
91													1	2			3	
92				1													1	
部位別総数	37	45	52	45	24	29	33	39	22	38	44	46	55	52	4	4	569	

表 9

層位	頸椎	胸椎	腰椎	仙骨	不明		距骨		踵骨		足根骨		手根骨		中手骨		中足骨		指骨			層位別総数	
					椎骨	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左		中節骨
1							1		1	2	2	1	1		2	2	3	2				1	15
2	42	48	28	1	3	6	5	10	11	2	5	1	2	14	16	18	9	16	8		4	249	
3	7	5	13				2	6			1	1		2	2	2	4	5	1			51	
5	11	4	10					2	3		1		3	4	4	4	2	5	3	2		58	
7																		1	1			2	
8	2	1	1		1			1	1					1			2	3				13	
10	7	2	3											5	3	3	2	5	3			33	
15	3	1	3			2					1			4	4		1	1	2	1		23	
16		1					1				1					2						5	
18	1	1	2														1					5	
20							1															1	
29																1						1	
34				1																		1	
92		1																				1	
部位別総数	73	64	61	1	4	9	9	20	17	2	11	3	5	32	32	27	22	37	21	8		458	

表10

層位	頭蓋骨			I1		I2		I3		C		P1		P2		P3		P4		M1		M2		M3		層位別総数
	右	左	左右あり	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	
1						1				1															2	
2	34	49	13	10	5	2	1	4	1	2	5	5	4	7	4	6	11	5	13	8	12	4	12	4	4	225
3	7	12	7		1				1		1			1	1	3	2	6	3	6	2	7	2	6	68	
5	29	31	6	2	2	1	1			1	4	2	3	4	4	8	5	8	8	7	8	8	6	5	161	
8	4	10		1							1			2		1	1	2	1	3	2	2	2		32	
10	17	17	6	2	4	1	1			1	3	1	4	2	5	3	5	3	4	4	6	3	4	4	3	103
15	15	9	8	2	1		1					2	1	4	2	3	2	4	4	3	3	2	1	3	72	
16		3																							4	
18		1																							1	
20			1											1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
部位別総数 植立歯	106	132	41	17	14	5	4	4	2	5	14	10	12	18	19	22	28	24	36	29	38	23	36	20	22	681
			(6)	(3)	(4)	(3)	(3)	(2)	(2)	(7)	(10)	(12)	(18)	(19)	(22)	(26)	(24)	(34)	(29)	(36)	(23)	(35)	(16)	(19)		

標本数 329 点

表11

層位	下顎			I1		I2		I3		C		P1		P2		P3		P4		M1		M2		M3		層位別総数
	右	左	左右あり	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	
1											2															4
2	51	51	22	15	12	7	18	4		13	20	1	2	5	5	12	7	18	13	30	22	22	16	19	18	403
3	11	9	6	3	5	7	1			3	2		1	1	1	3	3	4	3	8	6	5	5	3	4	94
5	16	11	13	10	10	5	6	1	1	6	8	2	1	4	2	7	8	9	8	16	15	10	11	10	11	201
6		1				1																				2
7		1									1									1		1		1	1	6
8	3	4	3	2	1	3	1			3	5	1		1	1	2	1	3	1	3	1	2	2	1	2	43
10	9	7	6	4	4	2	3	1	1	5	5			1	2	1	4	5	4	7	7	6	3	6	5	98
15	2	5	6	2	2					2	2			1	1	1	3	3	5	4	5	2	5	1	2	53
16	1	2																			1	1		1		6
18			1																							1
部位別総数 植立歯	93	91	56	37	34	25	29	6	2	32	45	4	4	12	12	24	27	40	37	66	59	48	42	44	42	911
			(20)	(19)	(15)	(11)	(2)	(2)	(16)	(10)	(4)	(4)	(11)	(12)	(23)	(25)	(37)	(33)	(63)	(57)	(48)	(39)	(42)	(37)		

標本数 381 点

表12

	層位	di1		di2		di3		dc		dp1		dp2		dp3		dp4		層位別総数
		右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	
上顎歯	1			1														1
	2		2									2		1		1		9
	3											1		1		2		3
	5											2		1				4
	6				1		1							1			1	2
	7						1											1
	8													1			1	2
	10										1	2	1	1	2	1	3	11
	15													1				1
	34						1								1			1
歯種別総数		0	2	2	3	0	0	0	0	0	1	7	1	4	5	4	6	35
下顎歯	1			1														1
	2		1	2						1	2	6	5	6	7	8	8	46
	3					1						2	2	3	2	3		13
	5					1					3		4	5	4	7		24
	6					1												2
	8	1																1
	10				1						2	1	2	2	4	3		15
	15												1		1			2
	16													1			1	2
	34						1											1
歯種別総数		1	1	5	4	0	0	0	0	1	2	11	8	15	18	19	22	107

イノシシの上・下顎乳歯の総出土点数 142

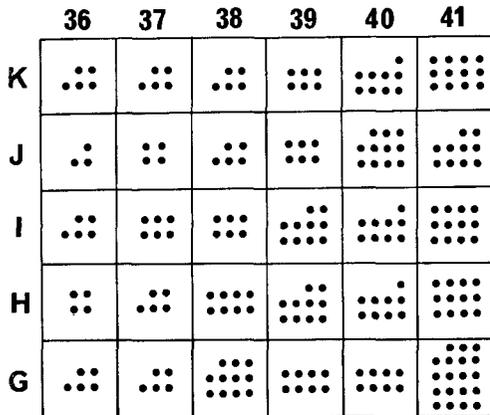


図1

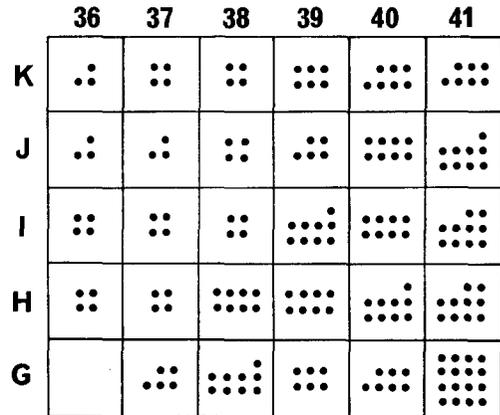


図2

多く、そのうちでも特にG41グリッドが最も多い。一方、81年度に発掘した地域（グリッド番号の若い方向）へ行くにしたがって出土点数も、重量も減少している。鳥浜遺跡が水辺に廃棄作業が行なわれていたとするならば、陸地から投棄した位置は3区、あるいは4区の方角からと考えられる。どのような種類のものが、あるいはどのような部位がどのようなちらばり方を示しているのかは興味深い、将来の課題としたい。

(4) 病変の見られた骨 (写真3)

病変の見られた骨はごく少ないと言える。4例が観察されたが、すべてシカで、イノシシには1例も見られなかった。

シカの右の角座部が、前頭骨から横に90度近く折れ曲がっているものが見られ(写真3—6)、角の先端は変形して正常には延びていない。また、第5頸椎、および第6頸椎が癒合している例(写真6—7)が見られたが、この個体は、さほど老齢のようには見えない。別の例では、中手骨の前面に骨の異常増殖が見られた。また、踵骨が短縮し、やはり骨の異常増殖が内面に多く見られた例があり、正常な歩行ができなかったと思われる(写真6—9)。

#### (5) シカ・イノシシ以外の哺乳類(写真7—14)

2区から出土したシカ・イノシシ以外の哺乳類の出土点数は192点で、5目11科15種である。同定された出土脊椎動物骨片数の5597点に占める率は、約3.4%である。また、重量は2969gで、2区の同定された出土重量に対する率は、1.6%である。シカ・イノシシ以外の哺乳類は、量的には、非常に少ない。この傾向は、1972年度の発掘時に出土した哺乳類でもうかがうことができる(西田, 1979)。時代による動物の種類の変化は認められない。

ここで扱うシカ・イノシシ以外の哺乳類は小型のものが多いので、発掘時に取り上げられにくいというサンプリングのバイアスが考えられるものの、綿密な発掘と整理作業を考えれば、小さいからと言ってこれらの哺乳類が失われる可能性は非常に少ないと言ってもよいだろう。

1972年度の発掘時に出土した哺乳類のうちでは、今回はイルカが出土していない。一方、新たに加わったものとしては、ヤマネコおよびノウサギがある。今回の調査では、カモシカとニホンジカとを区別したので、カモシカとシカを区別していない1972年度の場合よりも今回のシカ・イノシシ以外の哺乳類の重量パーセントが高くなることが予測されるにもかかわらず、その出土率は2.1%よりも低い。しかし、大きな差とは思われず、サンプリングによる誤差と考えられる。

ツキノワグマの骨、特に下顎骨は、他の哺乳類のように破損していないし、下顎の犬歯は植立した状態で出土しているものが多い。クマの下顎の犬歯が装飾品として用いられるケースはごく少なかったと考えられる。

アナグマやタヌキの頭蓋骨がさほど破損されずに出土している。タヌキなどの中型の哺乳類の脳は大型のシカ・イノシシのように、食べられていなかった可能性がある。

#### (6) イヌの下顎骨

イヌが6点出土している。シカやイノシシの骨に観察される、イヌのものと考えられる咬痕の多さから推測される程には多く出土していない。これらの骨は散乱状態のもので、埋葬犬ではない。したがって、イヌはヒトの残渣が捨てられる場所とは別のところに埋葬されている可能性が考えられる。この6点のうち、計測が可能なものは、右下顎骨である。主な計測値を次に示す。なお、計測方法は、斎藤(1963)に従った。

(単位=mm)

下顎骨全長(id-c•mid) 106.4

鳥浜貝塚出土(1985年度調査)の哺乳類遺存体

下顎骨全長 (id-c. post)	106.7
下顎骨全長 (id-goc)	107.9
下顎枝高	42.1
下顎枝幅	27.0
下顎体高 (M2 後部)	19.7
下顎体高 (M1 中央部)	19.3
下顎体高 (P4 と M1 の間)	17.5
下顎体厚 (M1 中央部)	9.5
犬歯頬舌径	5.4
P4 近遠心径	10.2
頬舌径	5.1
M1 近遠心径	18.6
M2 近遠心径	18.2

計測できた下顎骨は、かなり小型のもので、長谷部言人(1952)による古代日本犬の型区分では小級のものに含まれ、日本の古代犬としては最小の部類に入る大きさである。ただし、咬筋のつく咬筋窩は深く、筋稜も発達しており、下顎体も大きさに比して厚くがっちりしているなど、縄文時代のイヌとしての特徴も示している。

## ま と め

1985年度に発掘された鳥浜貝塚出土の脊椎動物遺存体では、シカがもっとも多く、全体の3分の2近くを占め、ついでイノシシがほぼ3分の1を占めている。この2種の哺乳類で出土した獣骨のほぼ95%を占めている。シカ・イノシシ以外の哺乳類は5目9科13種が出土しているが、量は少ない。

## 謝 辞

今回の獣骨の調査を許可して下さった若狭歴史民俗資料館の森川昌和元館長、鳥浜貝塚の獣骨の調査を勧めて下さった筑波大学の西田正規氏、ならびに以前から鳥浜貝塚の発掘・調査に携わっておられる方々に心から感謝いたします。オットセイと思われる骨の鑑定に際しましては、朝日大学の伊藤徹魯氏のご教示を得ました。厚く感謝いたします。

標本の整理に当たって、骨のナンバリング、集計などの膨大な仕事を分担して下さった獨協医科大学第一解剖学教室の荒井淑子さんに厚く感謝いたします。

## 註

- (1) 表1中の出土総数は、8601点となっており、前述の調査点数と一致していないが、これは各標本に番号付けをした時点以降に、同一個体と判定された破片をつなぎ合わせたりしたことによって生じた差である。

## 参考文献

- 長谷部言人(1952) 犬骨・埋蔵文化財発掘調査報告第一号「吉胡貝塚」, 文化財保護委員会; 146-150。  
稲波素子(1983): 鳥浜貝塚のシカ, イノシシ遺体。「鳥浜貝塚; 1981・1982年度調査概報・研究の成果——縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査3」, 福井県教育委員会・若狭歴史民俗資料館; 65-81。  
西田正規(1979): 動物遺体。「鳥浜貝塚——縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査」福井県教育委員会; 164-166。  
斎藤弘吉(1963) 犬科動物骨格計測法・私家版(東京); 1-138。  
茂原信生・大江文雄・櫻井秀雄(1988): 三貫地貝塚出土の動物遺存体。三貫地貝塚, 福島県立博物館調査報告第17集; 495-502, p1. 84-95。  
茂原(獨協医科大学 第一解剖学教室), 本郷(筑波大学 考古学教室), 網谷(若狭歴史民俗資料館)

Mammal Remains from the 1985 Excavation of  
the Torihama Shell Mound

SHIGEHARA Nobuo, HONGŌ Hitomi, AMITANI Katsuhiko

This report concerns the mammalian remains from amongst the vertebrate animals excavated at the 1985 excavation of the Torihama shell mound (early Jomon era) at Torihama, Mikata-cho in Fukui Prefecture. The condition of the excavated bones was good.

8,681 bones of vertebrate animals were excavated, the total weight being 204 kg. The quantity of fish and bird bones excavated, as compared with the quantity of mammal bone excavated was very small. The mammals included 5 orders, 11 families and 15 species. Deer accounted for the largest amount at some 2/3 of the total. Wild boar remains accounted for roughly 1/3 of the total. These two mammals, together, accounted for 95% of the total. There were few mammals other than deer and wild boar. At least 53 individual Japanese deer were found and at least 66 wild boars. A great number of deer antlers were excavated without damage. Wild boar vertebrae, including both thoracic vertebrae and lumbar vertebrae existed at a low ratio which was not the case for deer. It can be imagined, then, that the dismembering for these two animals differed. Dogs were excavated in a dispersed condition. According to the size categories described by Hasebe (1952), they belonged to the small-class dogs. These fell into the smallest division of ancient Japanese dogs.

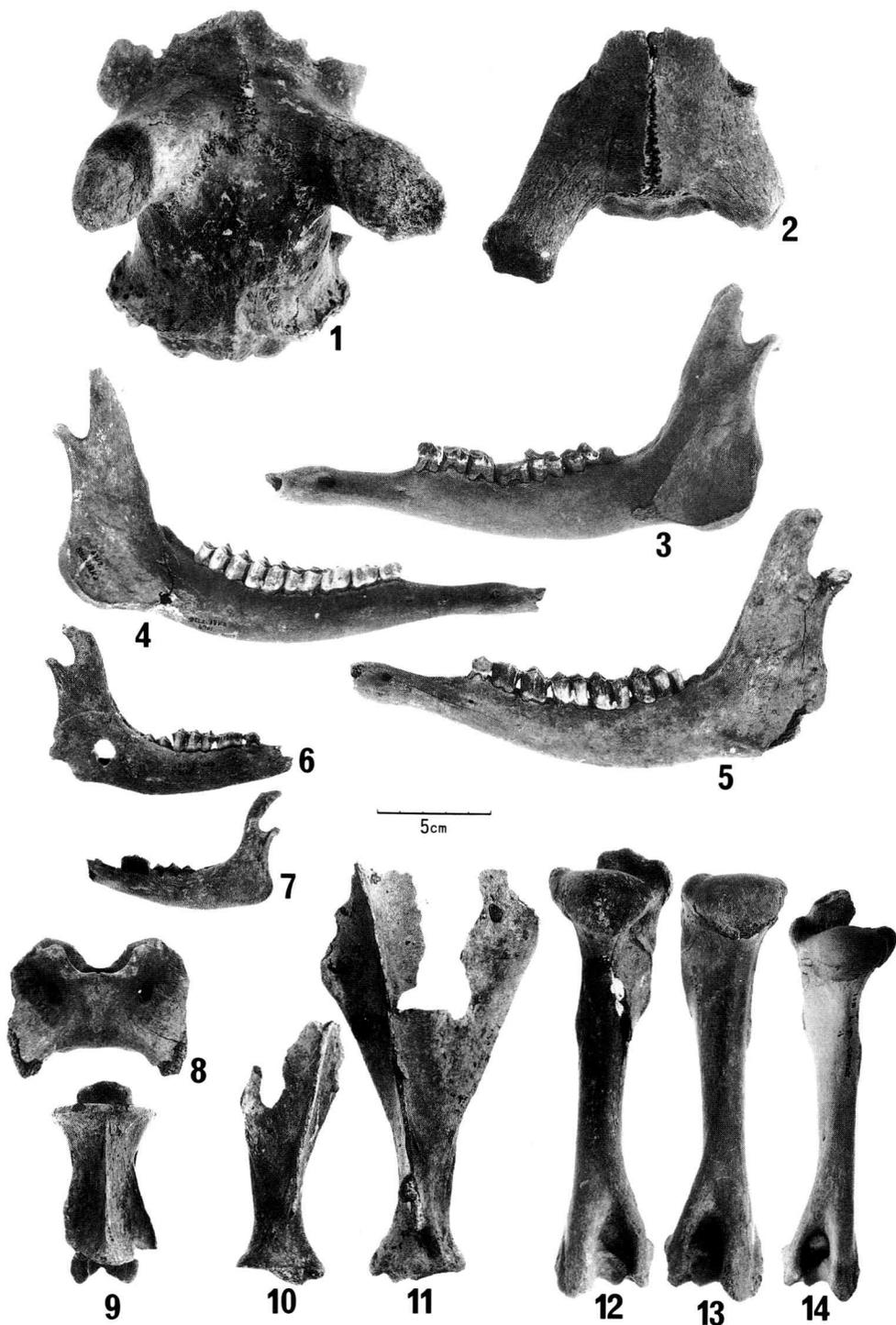


写真1 鳥浜貝塚L2区出土のシカの頭蓋骨、椎骨および上肢骨  
 1,2：頭骨上面観；上が前方である 3：左下顎骨外側面 4：  
 右下顎骨外側面 5：左下顎骨外側面 6：若齢個体の右下顎骨外  
 側面 7：幼齢個体の左下顎骨外側面 8,9：環椎および軸椎  
 10,11：右肩甲骨および左肩甲骨 12,13：右および左上腕骨後面  
 14：現生のニホンジカ（オス）の左上腕骨

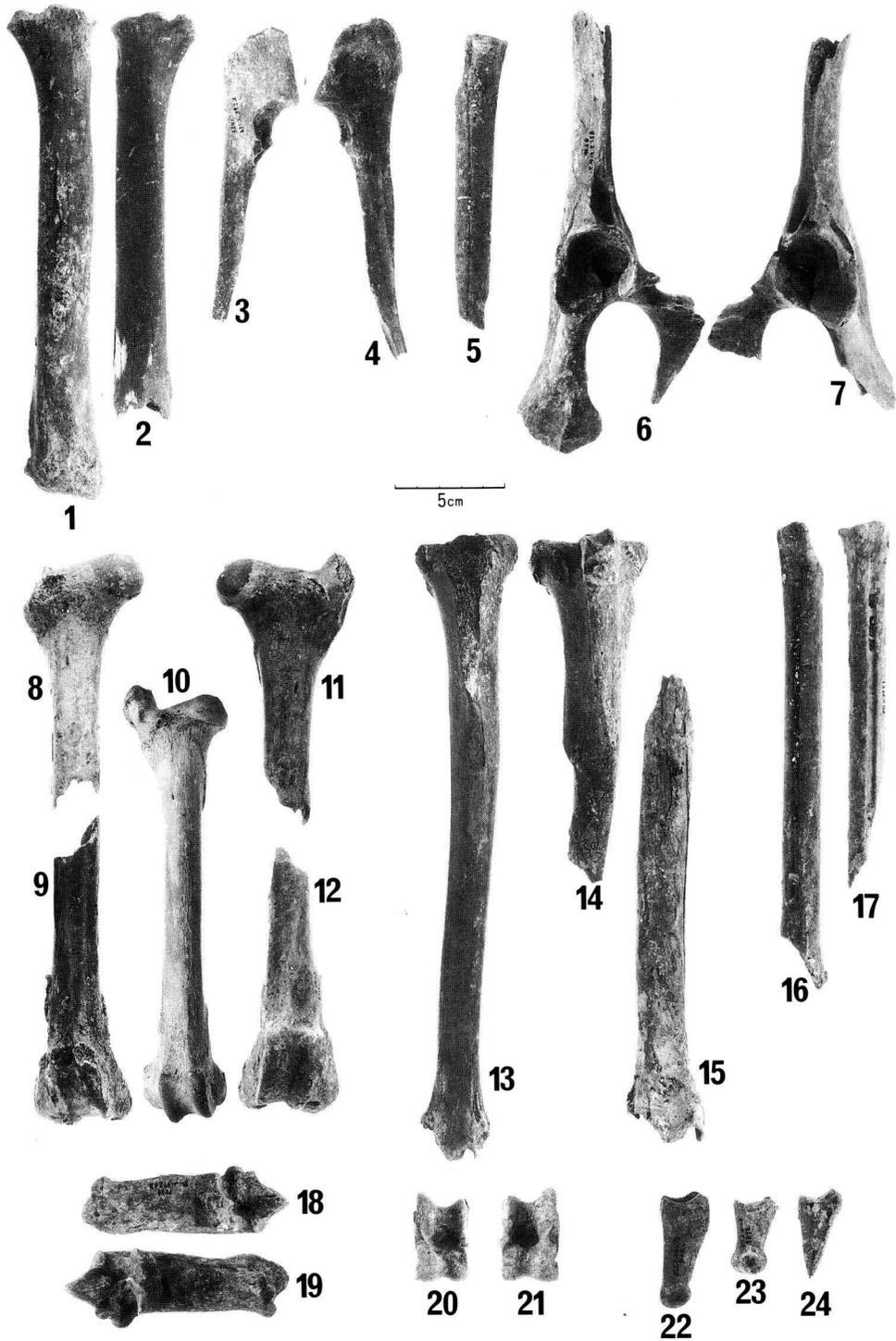


写真2 鳥浜貝塚L2区出土のシカの上肢骨および下肢骨  
 1, 2: 右および左橈骨前面 3, 4: 右および左尺骨前面 5: 右  
 中手骨前面 6, 7: 右および左寛骨前面 8: 右大腿骨の近位半前  
 面 9: 右大腿骨の遠位半前面 11: 左大腿骨の近位半前面 12:  
 左大腿骨の遠位半前面 10: 現生のニホンジカ(オス)の右大腿骨  
 前面 13~15: 右脛骨前面 16, 17: 右および左中足骨前面 18, 19  
 : 左および右踵骨内側面 20, 21: 右および左距骨後面 22: 基節骨  
 23: 中節骨 24: 末節骨

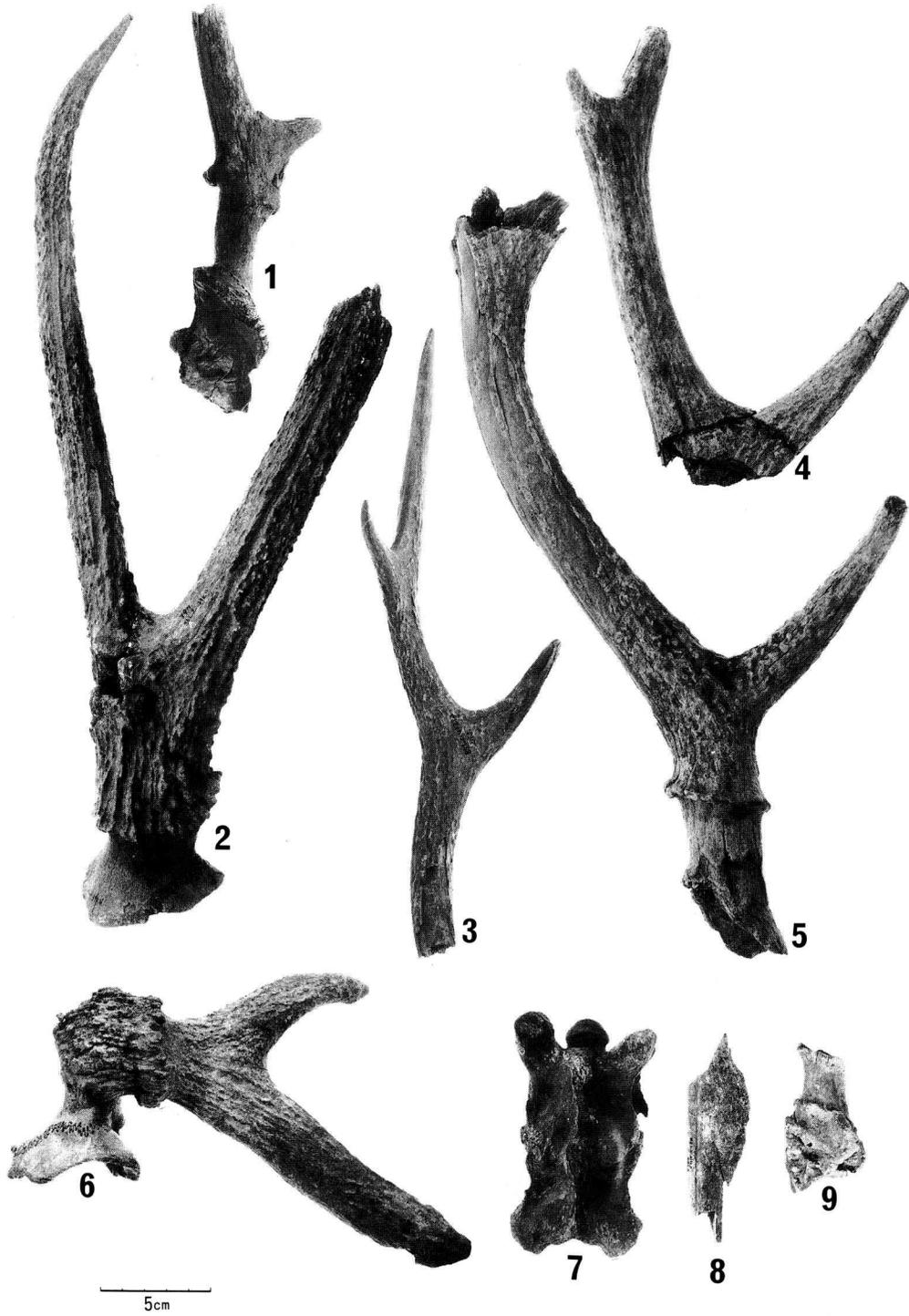


写真3 鳥浜貝塚L2区出土のシカの角および病変の見られた骨  
 1：左前頭骨及び角基部 2：右前頭骨及び角 3：左角（1と同一個体） 4、5：前頭骨および左角（同一個体） 6～9：病変等の見られる骨；右前頭骨及び頭頂骨と直角に折れ曲がった角（6）、癒合した第5・6頸椎背面（7）、膨隆の見られる中手骨前面（8）、変形した右踵骨の内側面（9）

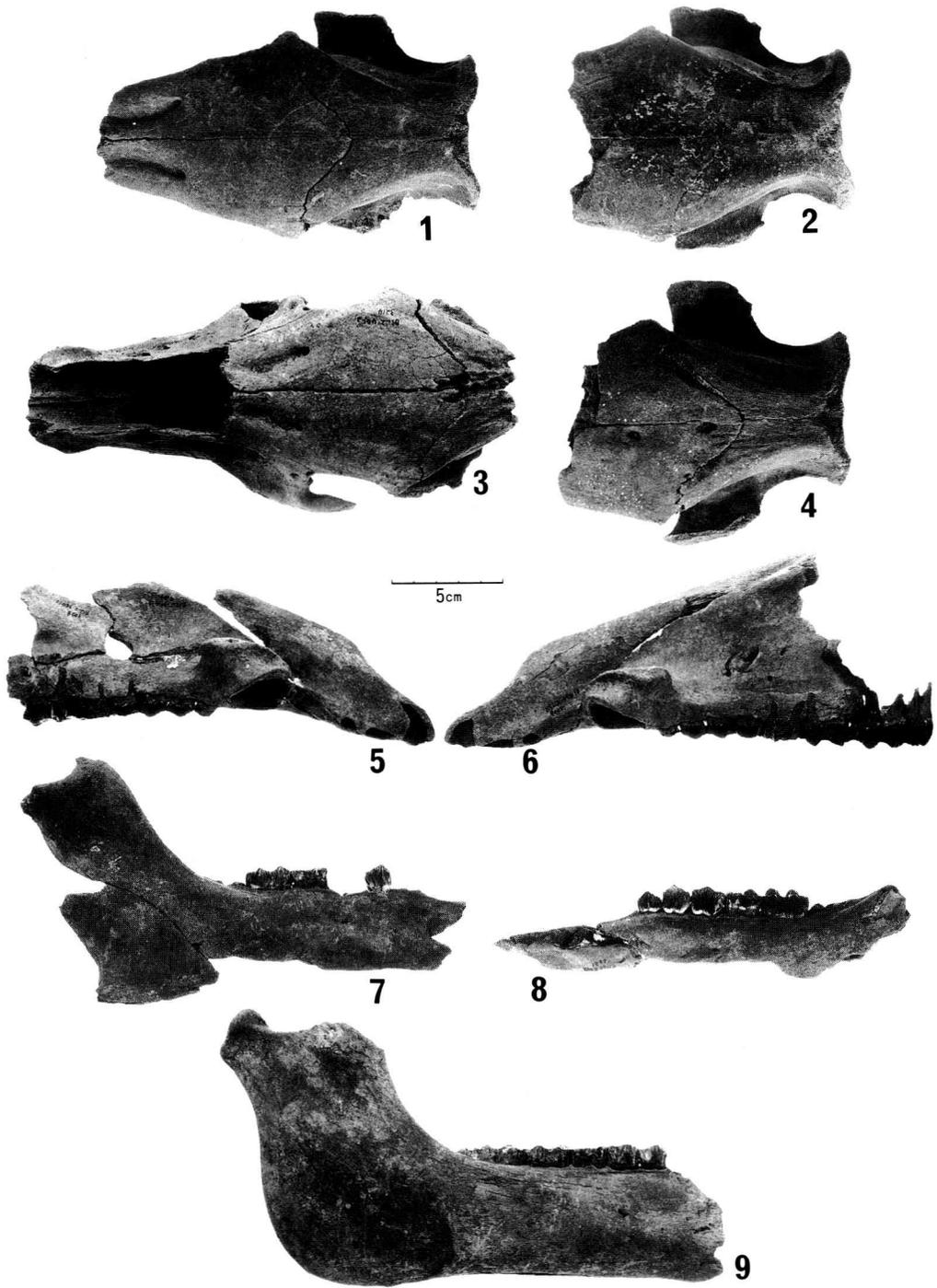


写真4 鳥浜貝塚L2区出土のイノシシの頭蓋骨  
 1～4：頭骨上面観：いずれも後頭骨の鱗部が取り去られている  
 5,6：右上顎部と左上顎部（同一個体） 7,8：若齢個体の右・左下顎骨外側面（同一個体） 9：右下顎骨

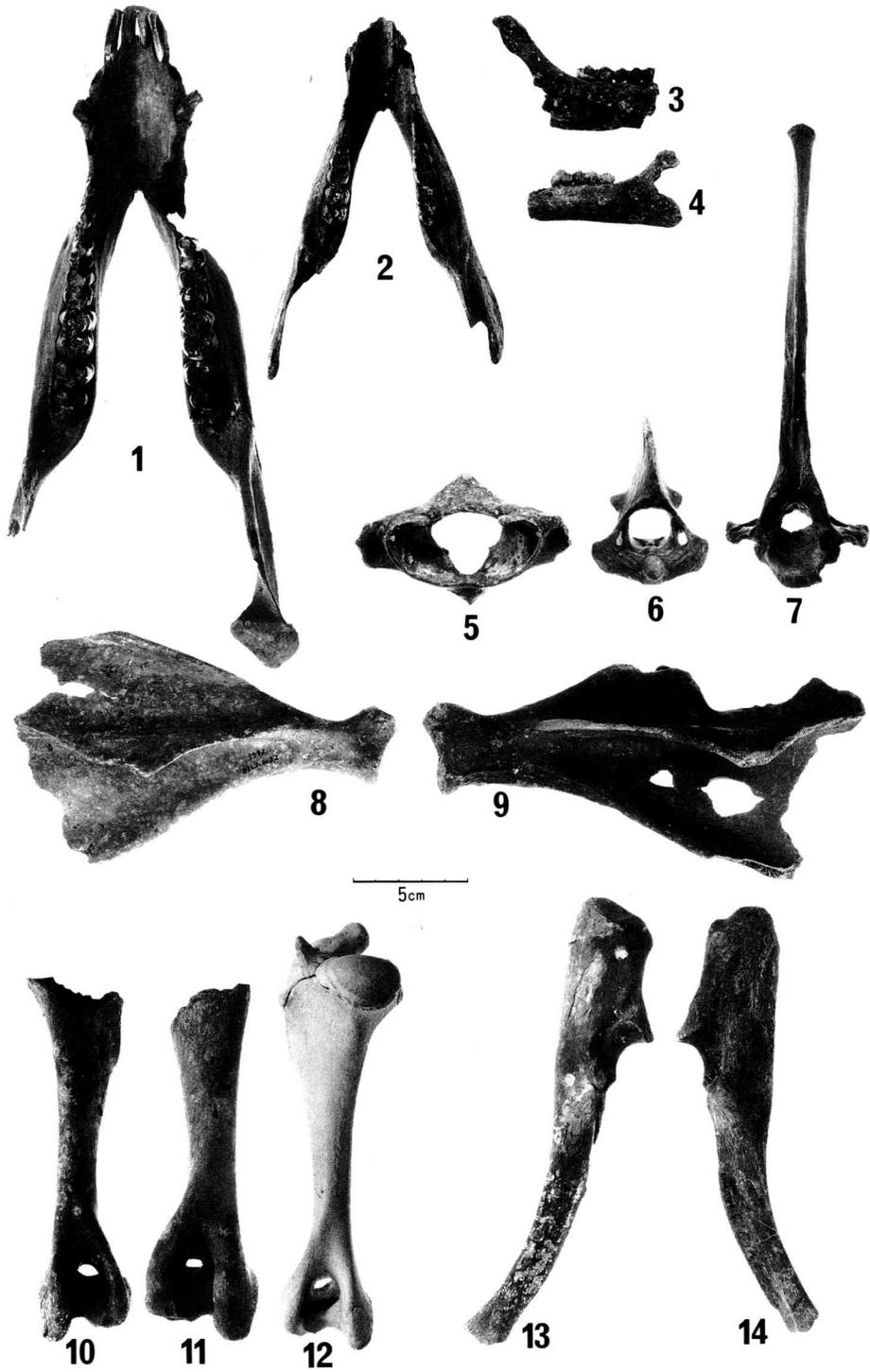
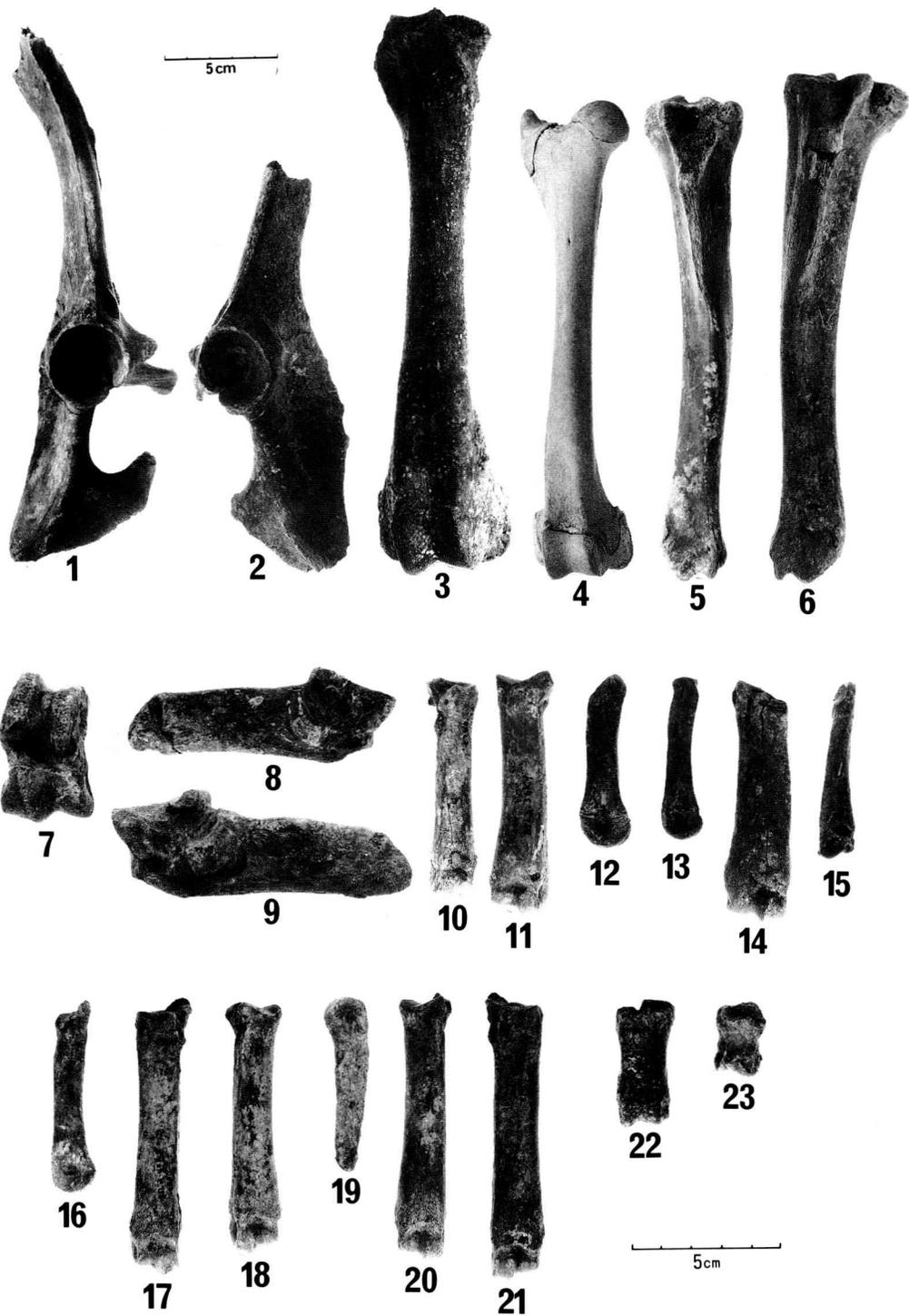


写真5 鳥浜貝塚L2区出土のイノシシの下顎骨、椎骨、上肢骨および比較資料  
 1：成獣の下顎骨 2：若齢個体の下顎骨 3, 4：乳歯列を持つ幼齢個体の右・左  
 下顎骨外側面 5～7：環椎、軸椎および胸椎 8, 9：右肩甲骨および左肩甲骨外  
 側面 10, 11：右上腕骨および左上腕骨後面 12：現生のイノシシ（オス）の左上腕骨。  
 現生の標本はやや若い個体だが長さの成長はほぼ終了している個体である 13, 14：  
 右および左尺骨外側面



**写真 6** 鳥浜貝塚L2区出土のイノシシの下肢骨、上肢骨および比較資料  
 1, 2 : 右および左寛骨前面 3 : 右大腿骨前面 4 : 現生のイノシシ (オス) の右大腿骨。現生の標本はやや若い個体だが長さの成長はほぼ終了している個体である 5, 6 : 右および左脛骨前面。いずれも成獣であるから、大きさの違いはオス、メスによるものかもしれない 7 : 右距骨後面 8, 9 : 左および右踵骨内側面 10 ~ 15 : 中手骨; 右第 4 (10), 右第 3 (11), 右第 5 (12), 左第 2 (13), 左第 3 (14) および左第 5 中手骨 (15) 16 ~ 21 : 中足骨; 右第 5 (16), 右第 4 (17), 右第 (18), 左第 2 (19), 左第 3 (20) および左第 4 中足骨 (21) 22 : 基節骨 23 : 中節骨

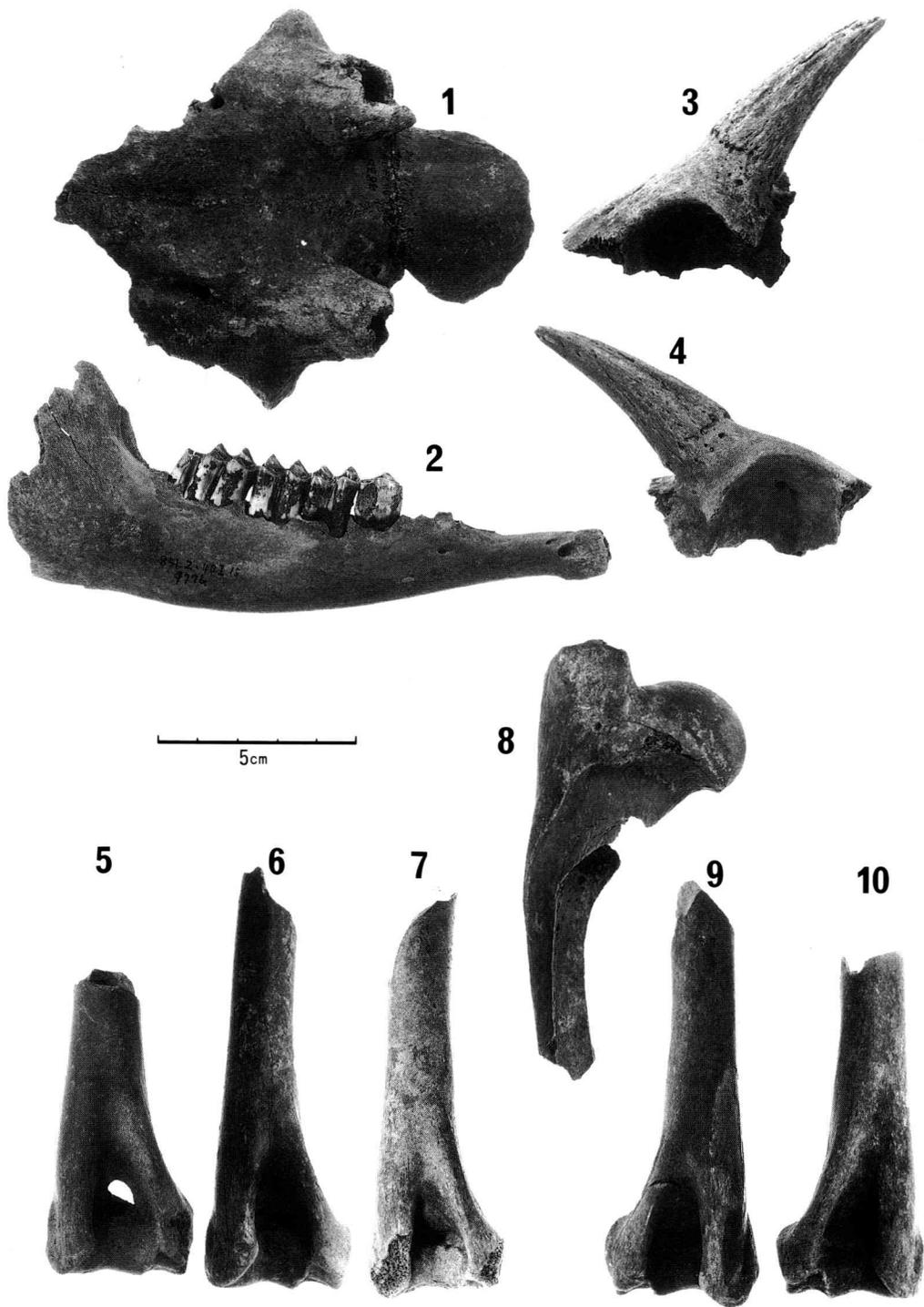


写真7 鳥浜貝塚出土のカモシカの頭蓋骨と四肢骨

1：角基部を持つ前頭骨および頭頂骨上面観 2：右下顎骨外側面  
 3,4：角を持った左前頭骨および右前頭骨（同一個体） 5,6,7：  
 右上腕骨遠位半 8：左上腕骨近位半 9,10：左上腕骨遠位半

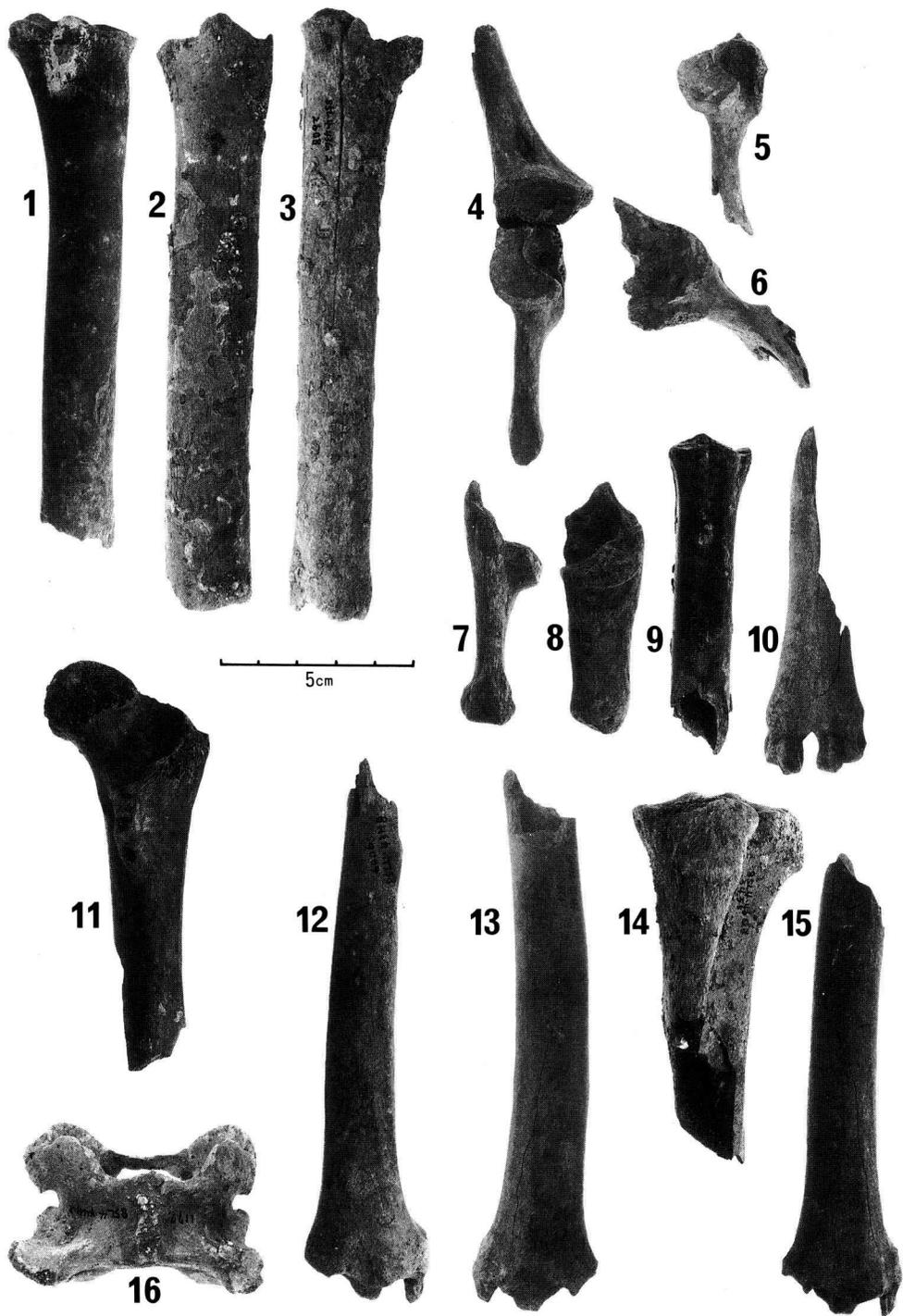


写真8 鳥浜貝塚出土のカモシカの四肢骨と椎骨  
 1：橈骨近位半 2,3：右および左橈骨近位骨幹 4：若齢個体の右寛骨（恥骨欠） 5：右座骨 6：右恥骨 7：右踵骨下面 8：左踵骨内側面 9,10：右中足骨近位部および遠位部 11：右大腿骨近位半 12,13：右頸骨遠位半 14：左頸骨近位部 15：左頸骨遠位半 16：環椎



写真9 鳥浜貝塚出土のニホンザル

1：下顎骨上面観 2,3：老齢個体の右および左下顎骨外側面  
 4,5：右下顎骨外側面 6：左下顎骨外側面 7：左上腕骨骨幹  
 8,9：右および左上腕骨遠位部 10,11：右寛骨（主に腸骨） 12  
 ：左寛骨（恥骨を欠く） 13,14：右および左尺骨近位半 15,16：  
 右大腿骨近位半 17：右大腿骨骨幹部 18：頸骨近位部 19：頸  
 骨遠位半

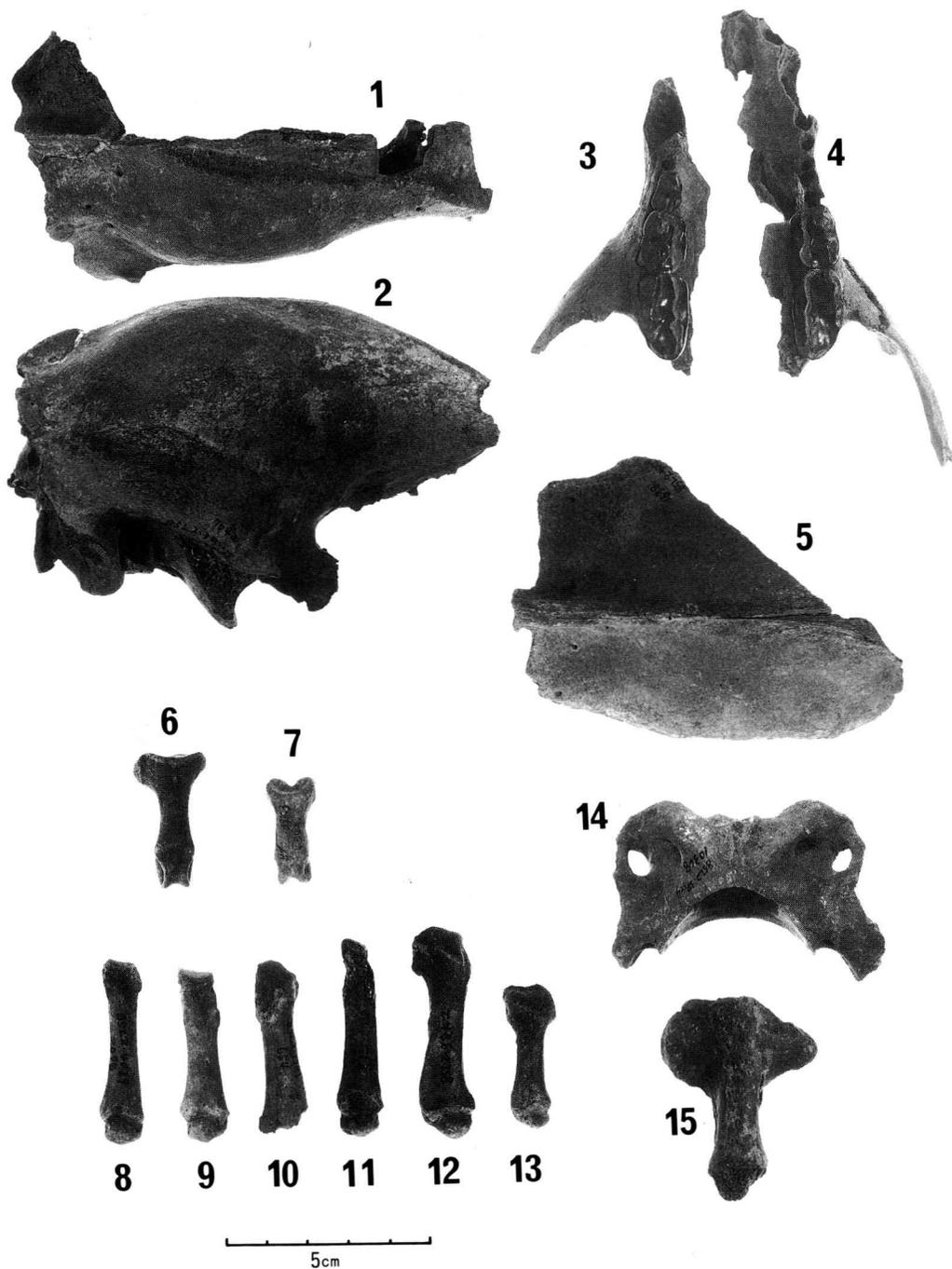


写真10 鳥浜貝塚出土のツキノワグマの頭蓋骨、四肢骨、椎骨  
 1,2：頭蓋右後半部の上面観と側面観 3,4：右上顎部および左上顎部（同一個体）の底面観 5：左右頭頂骨上面観（右が前方で、中央は矢状隆起） 6：基節骨（6～14まではいずれも上方が近位）  
 7：中節骨 8,9：右第3および右第2中手骨 10～13：左第5、右第3、右第5および、右第5中足骨 14：環椎 15：右踵骨下面

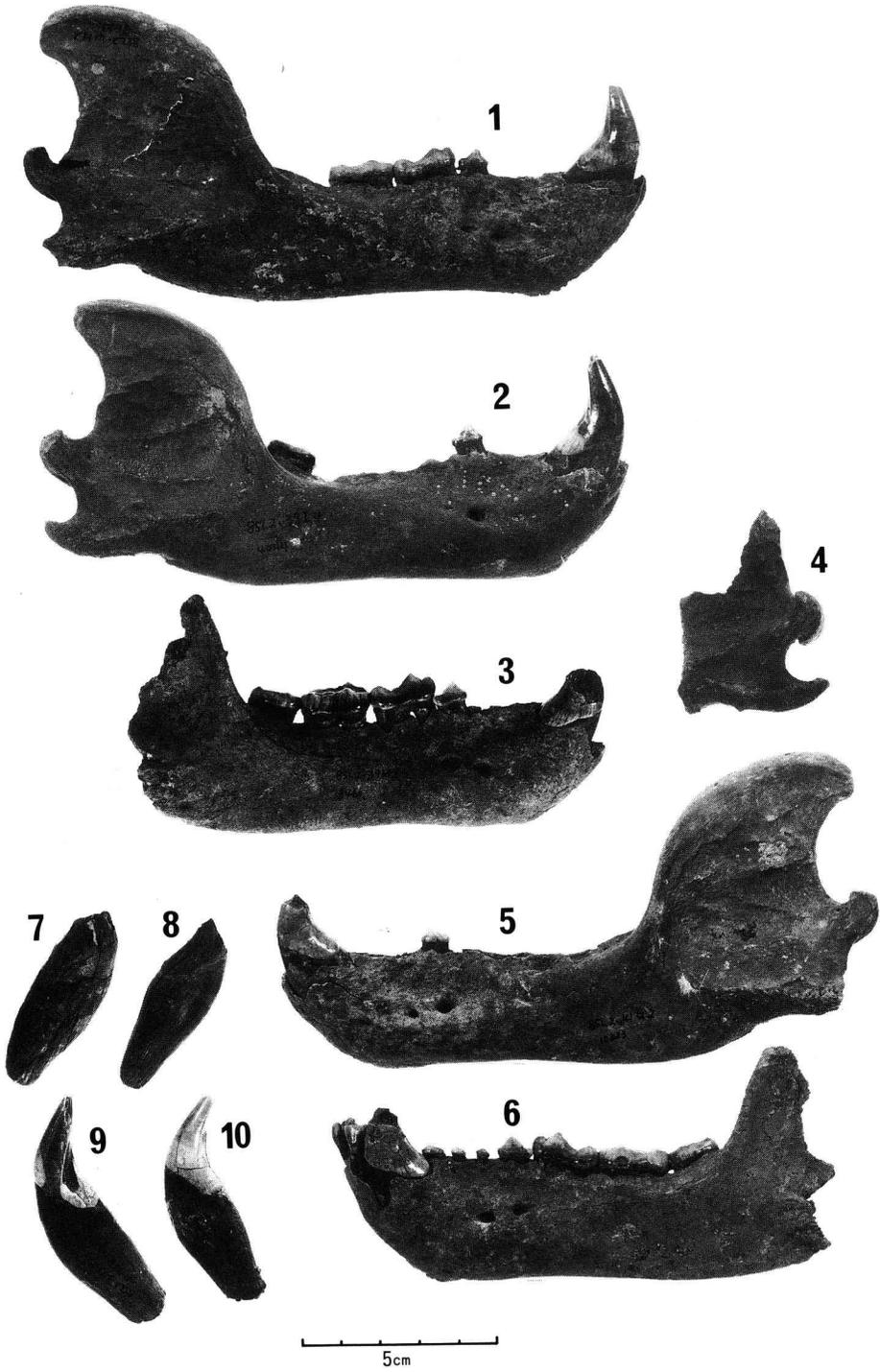


写真11 鳥浜貝塚出土のツキノグマの下顎骨と下顎歯  
 1, 2, 3 : 右下顎骨外側面 4 : 左下顎骨下顎角部 5, 6 : 左下顎骨外側面 7 : 右上顎犬歯 8, 9, 10 : 左下顎犬歯



写真12 鳥浜貝塚出土のツキノワグマの四肢骨

1：右上腕骨骨幹 2：左橈骨 3：左橈骨骨幹 4：若齢個体の  
右橈骨骨幹 5：右尺骨（遠位端欠） 6：左尺骨骨幹 7, 8：  
若齢個体の右大腿骨遠位骨端および右大腿骨（同一個体） 9：右  
大腿骨（遠位端欠） 10：若齢個体の右頸骨 11：右頸骨骨幹

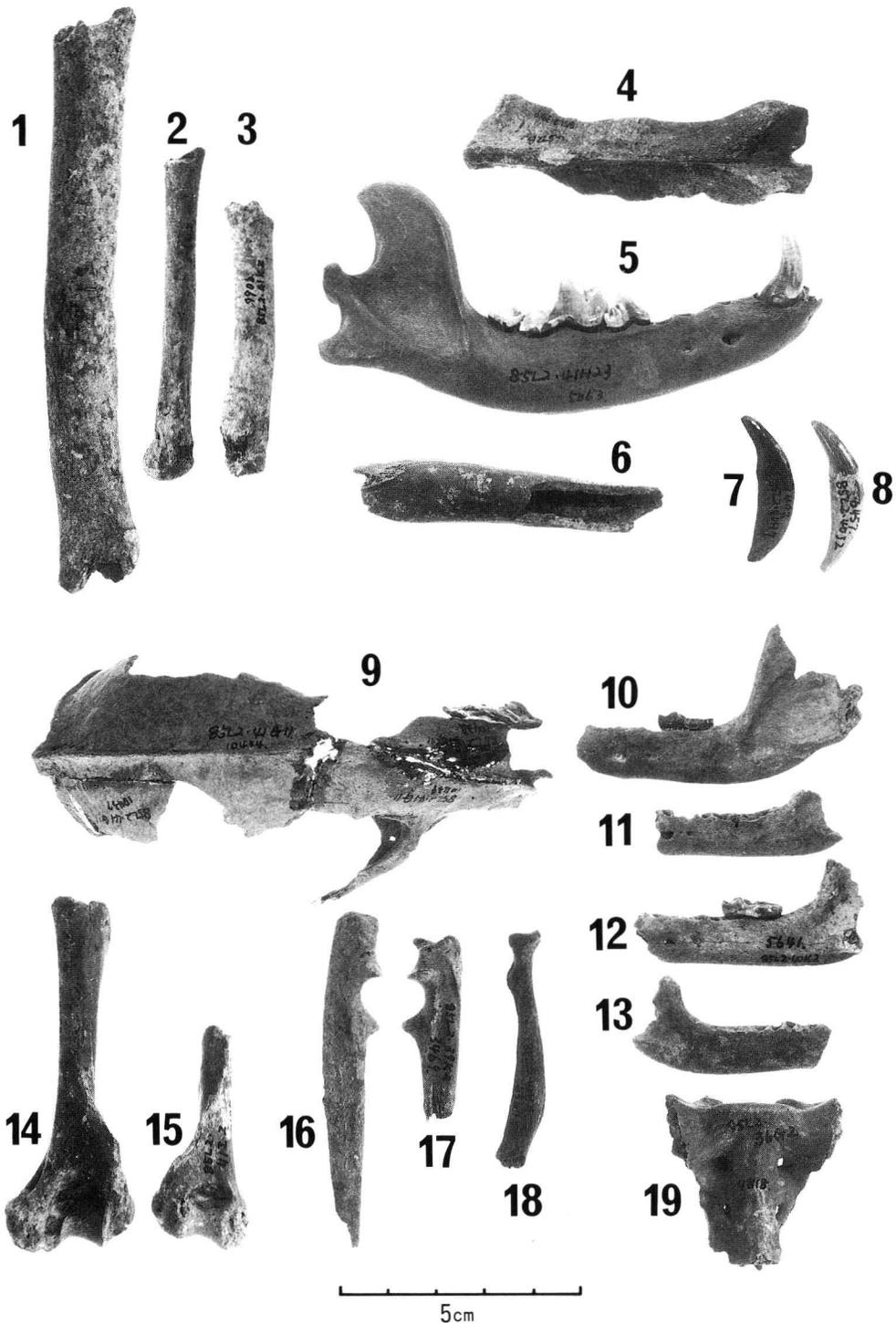


写真13 鳥浜貝塚出土のオオカミ、イヌおよびアナグマ

- 1：オオカミの右橈骨骨幹 2：右第4中手骨（遠位骨端を欠く）  
 3：左第1中足骨近位半 4：イヌの頭頂骨矢状隆起部（右が前方）  
 5：右下顎骨外側面（計測値は本文中） 6：右上腕骨骨幹部  
 7, 8：左上顎犬歯 9：アナグマの頭蓋骨上面観（両側欠）  
 10：左下顎骨外側面 11：幼齢個体の左下顎骨外側面 12：左下顎骨外側面  
 13：右下顎骨外側面 14：右上腕骨遠位半 15：左上腕骨遠位部  
 16, 17：左および右尺骨近位部 18：右橈骨（遠位骨端欠）  
 19：仙骨

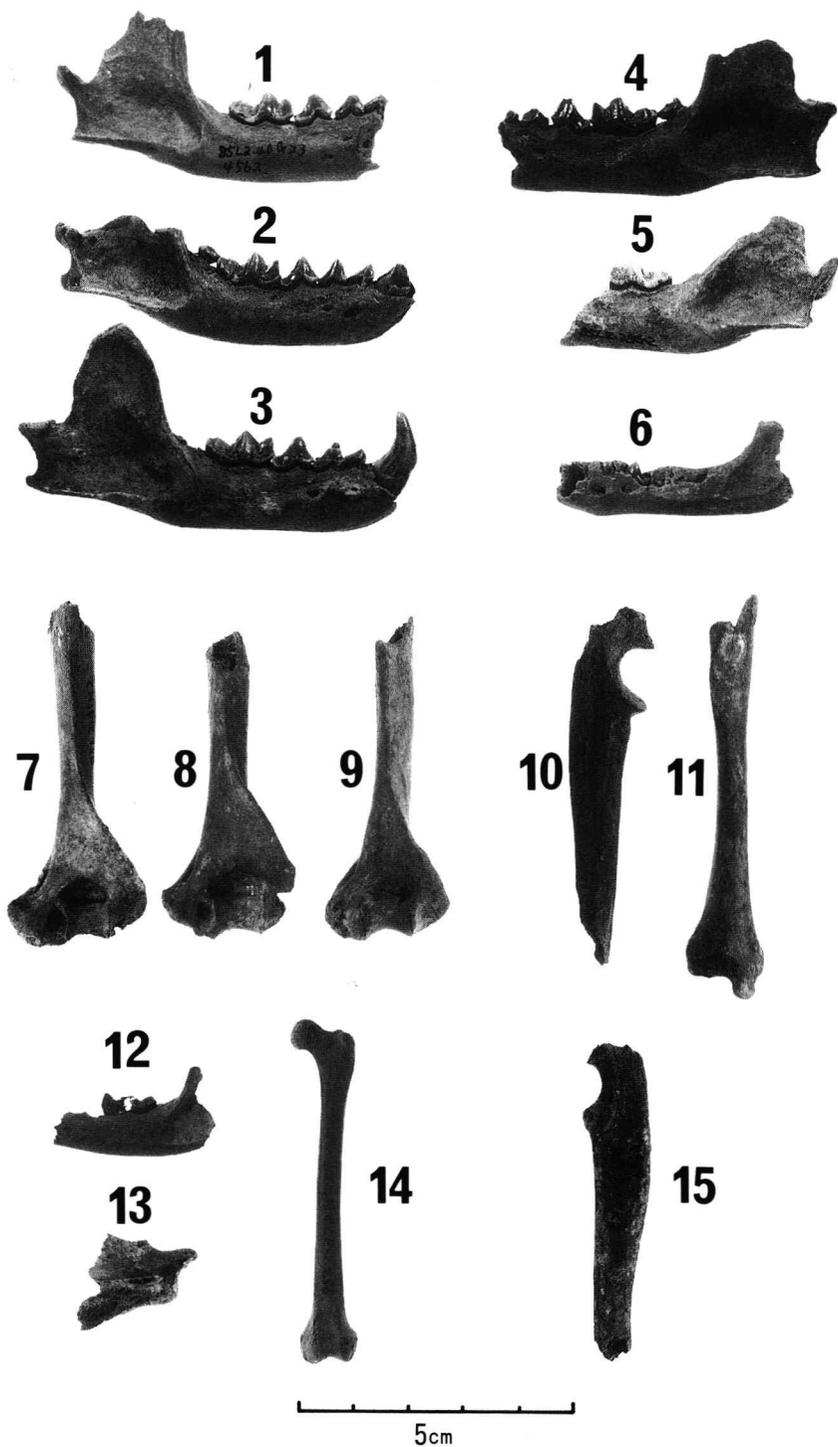


写真14 鳥浜貝塚出土のカワウソ、テンおよびヤマネコ  
 1, 2, 3 : カワウソの右下顎骨外側面 4, 5 : カワウソの左下顎骨外側面  
 側面 6 : カワウソの幼齢個体の左下顎骨外側面 7, 8, 9 : カワウソの  
 右上腕骨遠位半 10 : カワウソの右尺骨近位半 11 : カワウソの  
 右顎骨 (近位部欠) 12 : テンの左下顎骨 13 : テンの右肩甲骨  
 14 : テンの左大腿骨 15 : ヤマネコの左尺骨近位半

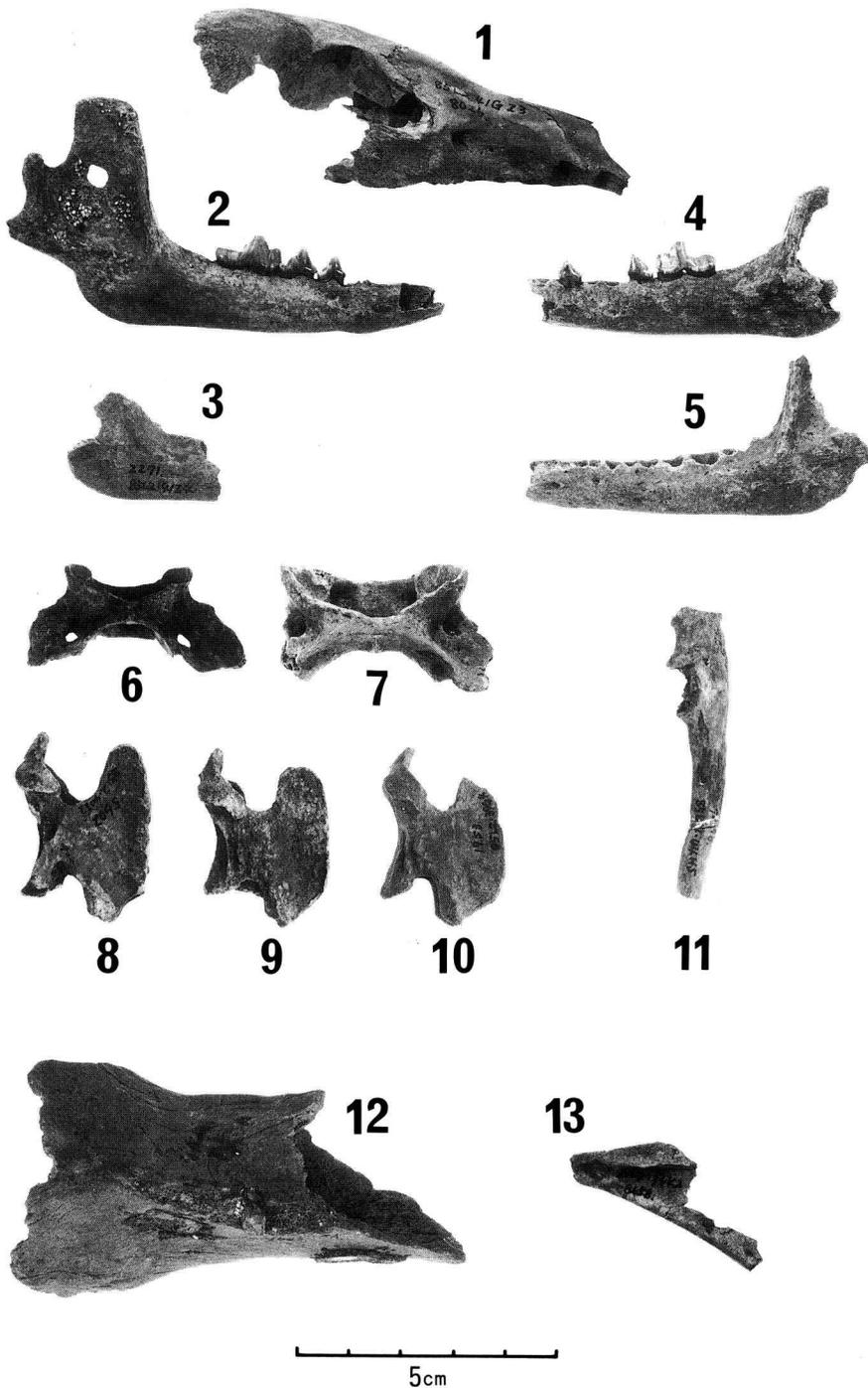


写真15 鳥浜貝塚出土のタヌキ、オットセイ(?)およびウサギ  
 1: タヌキの頭蓋骨右側面 2,3: 右下顎骨外側面 4,5: 左下顎骨外側面 6,7: 環椎 8,9,10: 軸椎 11: 左尺骨近位半 12: オットセイと思われる左上腕骨骨幹部 13: ウサギの左肩甲骨片